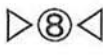


「ネプコンサウスチャイナ2012」レポート



千住金属工業は、中国の華東、華北、華南に、営業と生産部門を有する子会社を設けて、それぞれの市場に密着した営業戦略を推進している。中でも広東省惠州市には大規模な生産拠点も構えている。



二階堂 総経理



長谷川 総経理

顧客の用途別に対応

「ネプコンサウスチャイナ2012」では「低銀やナ2012」では「低銀や」に入りはんだを中心に、顧客の目的や用途に応じた各種はんだ材料を出品し、同時にコスト要求も

低銀やに入りはんだなど 出品

千住金属工業

千住金属(上海)の長谷川友秀総経理は「市況は良くない。大手のスマートフオン、タブレットPCに関する企業は好調だが、従来のパソコンは伸びていない。中国市場でも鉛フリーく、世界の生産工場としてはんだの標準的材料として採用されてきたM705(Sn3Ag10.5Cu)に代わり、顧客のニーズも低銀や無銀化へと多様化し、同時にコスト要求も

厳しくなっている。当社は高度で安定した実装品質が確保でき、コスト競争力を備えた低銀製品を積極的に提案・提供している」と話した。

低銀、低コスト化

ネプコン展では、低銀ソルダーペーストを展示の中心に据え、融点・信頼性・コストパフォーマンス全てのバランスに優れた1%Agの「M40」と、品質を有するソルダーペースト。

華南・香港地区を担当する千住金属(香港)の二階堂高之総経理は「華南地区は、生産の受け皿が大き

M40は、従来のM705と同じプロファイルで実装でき、同等以上の性能を

確保しつつ銀含有量を0.3%に抑えた、低コスト化を実現した「M46」を売り込んだ。

M40は、従来のM705市場の多様化に対応できる大規模生産拠点へと大きな変ほうを遂げた。(つづ)

(西山前特派員)



低銀はんだを主力にアピールした

千住金属(惠州)の惠州工場は、これまで日本から輸入してきた原料や、中間材料を現地調達に切り替えて、千住金属工業の中国での生産比率を大幅に引き上げた。特に、やに入りはんだ、ソル